

マッコウクジラ

マッコウクジラは、体長の3分の1にもなる巨大な頭をもち、オスは体長 15m（体重 45 トン）、メスで 11m（20 トン）ほどになります。最高寿命はオス、メスとも 75 歳前後です。巨大な頭には、脂肪組織や脳油が入った袋が入っています。棒のような下あごには、左右に 20～28 本の歯が生えますが、上あごの歯は退化し、歯ぐきに埋まったままです。鯨類の鼻の穴は、普通は頭の頂にありますが、マッコウクジラだけは例外で、頭部前方の左上にあるため、噴気（潮吹き）は、左前方に上がります。

世界中の海に生息し、深海にすむエサであるイカの分布と関係しているらしく、水深 1,000m より深い外洋海域に多くいます。冬は赤道付近の暖かい海に、夏は高緯度地方の寒い海に移動します。日本近海では太平洋側の海岸に時々打ち上がり話題になりますが、日本海に現れるのはまれです。

マッコウクジラは潜水能力が優れ、普通は水深 300～600m まで潜りますが、3000m を越すといわれています。深海では音を発し、はね返ってきたエコー（反響）を聴きエサを探し当てます。酸素の運搬や貯蔵に関係している血中のヘモグロビンや筋肉中のミオグロビンの量が多く、体に多くの酸素をたくわえることができ、潜水時間は 30 分から 1 時間にもなります。

マッコウクジラの群れは、普通は成熟したメスとその子どもの家族からなる 15～20 頭の群れをつくり生活しています。オスの子どもは、10 歳前後で母親の群れを離れて、若いオス同士の群れをつくります。オスは体長が 14m、25 歳くらいになると、単独で生活するようになり、繁殖期が近づくと、メスと子どもの群に行き、メスと交尾します。オス同士が出会うと闘争がおきるため、大きなオスの体にはよくヒッカキ傷がついています。

特別展「クジラ」（平成 23 年 7 月 16 日（土）～9 月 11 日（日））では、実物大のマッコウクジラの頭部模型や歯、脳油などを展示します。 （2011 年 7 月 南部久男）

